

セグロコシビロダンゴムシ *Venezillo dorsalis* (IWAMOTO, 1943)

布村 昇

富山市科学文化センター 〒939-8084 富山県富山市西中町 1-8-31

One Page of My Note on Animal Anatomy - 2, *Venezillo dorsalis* (IWAMOTO, 1943)

Noboru Nunomura: Toyama Science Museum, Nishinakano-machi 1-8-31,
Toyama-shi, Toyama 939-8084, JAPAN

表1 各地点での水生昆虫種数

目数	採集地	1. 谷内	2. 竜口	3. 日尾	4. 利賀	5. 細島	全体
カゲロウ種数		6	5	7	9	9	14
カワゲラ種数		0	4	4	2	1	7
トビケラ種数		4	5	4	2	4	8
その他		0	0	2	3	0	4
採取昆虫種数		10	14	17	16	14	33

表2 各種の採集された地点 (+で示す)

目名	採集地 和名	1. 谷内	2. 竜口	3. 日尾	4. 利賀	5. 細島
		(百瀬川)	(百瀬川)	(百瀬川)	(利賀川)	(利賀川)
カゲロウ目	シロハラコカゲロウ			+		
	チラカゲロウ				+	
	ウエノヒラタカゲロウ				+	+
	エルモンヒラタカゲロウ	+			+	+
	タニヒラタカゲロウ			+		
	ヒメヒラタカゲロウ		+	+	+	+
	キョウトヒメフタオカゲロウ	+	+	+		+
	マエグロヒメフタオカゲロウ	+	+	+	+	+
	アカマダラカゲロウ	+		+		
	オオマダラカゲロウ	+	+	+		+
カワゲラ目	チェルノバマダラカゲロウ				+	+
	フタマタマダラカゲロウ	+			+	+
	ミットゲ マダラカゲロウ				+	+
	フタスジモンカゲロウ		+		+	
	オオアミメカワゲラ		+	+		
	フサオナシカワゲラ			+		
	オオヤマカワゲラ				+	
	モンカワゲラ		+	+	+	
	トワダカワゲラ		+			
	ノギカワゲラ		+	+		
トビケラ目	ミドリカワゲラ					+
	コカクツツトビケラ	+				
	ウルマシマトビケラ					+
	シロフツヤトビケラ		+	+		
	<i>Rhyacophila.sp</i>		+		+	+
	トワダナガレトビケラ		+	+		
	ヒゲナガカワトビケラ	+	+	+	+	+
	<i>Ceraclea.sp</i>	+		+		
	<i>Agapetus.sp</i>	+	+			+
	双広蜻蛉			+		
アミカ			+			
ヘビトンボ			+	+		
ミヤマカワトンボ				+		
コオニヤンマ				+		

「ダンゴムシ」とは陸産等脚目(ワラジムシ目)甲殻類のうち、丸くなるものを指し、丸くならないものは「ワラジムシ」と呼ばれている。さて、「ダンゴムシ」と呼ばれるものにも、日本で見られるものだけで3科あり、私達のまわりに普通にみられる「ダンゴムシ」といえば、富山県はもちろん、関東・北陸地方から九州にかけての地域で、人間営為の及ぶ場所では通常「オカダンゴムシ」といえば、オカダンゴムシ科 *Armadillidiidae* のオカダンゴムシ *Armadillidium vulgare* と思って言い良いが、県内にはもう2種ダンゴムシがいる。ひとつは砂浜海岸にいるハマダンゴムシ *Tylos granulariferus* であり、ハマダンゴムシ科はほかのワラジムシやダンゴムシとかなり遠縁のものである。もうひとつはコシビロダンゴムシ科 *Armadillidae* に属している。セグロコシビロダンゴムシ *Venezillo dorsalis* である。オカダンゴムシ科がヨーロッパを中心に分化し、世界中に広がったコスモポリタンなのにたいし、コシビロダンゴムシ科はアジアなどに広く分布し、わが国にも昔から居た在来種ある。この2つの科もそれほど近縁ではないと考えている。コシビロダンゴムシ科は、わが国の温帯に幅広く分布し、富山県ではシイ、タブ林などの常緑広葉樹林はもちろん、二次林にもいる。セグロコシビロダンゴムシは岩本嘉兵衛により、1943年に記載されたもので記載の文章が少なく、日本語のみの記載であり、欧米の研究者からも無視され続けた。模式標本はいろいろ調査したがその指定は無いようである。

採集方法・固定・保存

落葉を粗いメッシュで振るい、落ちてきた虫を様々土壌動物中から見つけ出し、ピンセットで摘み取るか、吸虫管で吸い取る。あるいは落葉ごと持ち帰り、ツルグレン装置にかけ、白熱電球で落ち葉や土壌を乾燥させ、追い出す。ただし、メッシュの目を粗くしないと網目を通過できない。

固定については、長く残す標本として目的なら10%ホルマリンに数日漬し、70%のエチルアルコールに移す、ただし、解剖に際して、丸くなってなかなか伸びない。アルコールにつけるのは真の固定ではないが、当面の保管なら十分で、固くならないので、解剖用には好都合である。

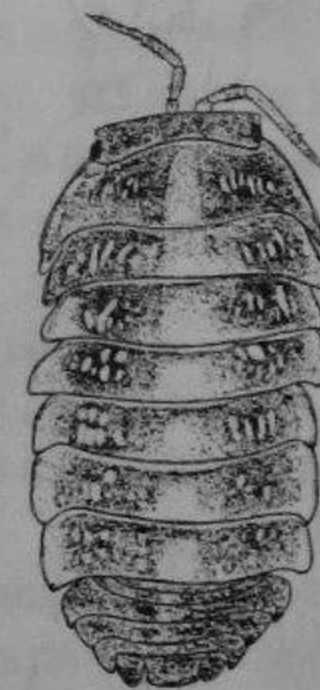


図1 セグロコシビロダンゴムシ背面 (Nunomura, 1990)

解剖

虫体にグリセリンをたらし、腹面を上にし、利き手でない方で、体を押さえ、利き手で、先を研いだ柄付き針を手前から先に滑らすように、付属肢をそぐようにとる。

グリセリンを付けないと乾燥してしまい、はずした、付属肢が飛んでしまうことがある。はずした付属肢は、できれば別々の小さな瓶に70-75%のエチルアルコールとともに入れておく。あとでどれがどれか分からなくならないようにするためである。

オス外形の記載

以下は全て富山市三熊産のオス個体に基づく。体色は黒く、背に不規則な淡色模様がある。頭盾

は丸味を帯びた五角形。第1胸節腹面に深い溝、第2胸節腹面に突起がある。腹尾節は砂時計状。

第1触角(図2B)は、3鞭節から成り、先端には6本の剛毛がある。第2触角(図2C)は、5柄節2鞭節から成る。全体に多数の短い剛毛に覆われているが、第5柄節の末端にほかより長い剛毛がある。2つの鞭節の長さの比は末節のほうが基節の4.0倍である。右大顎(図2D)：門歯状突起は3歯をもつ、可動葉片は薄く弱い2突起を持つ。その後には2本の羽状剛毛を持つ。白歯状突起は1本の比較的短い羽状剛毛になっている。大顎鬚はない。左大顎(図2E)：門歯状突起は3歯を持つ。可動葉片はかすかに3突起を持つ。2本の羽状剛毛を持つ。白歯状突起は1本の比較的短い羽

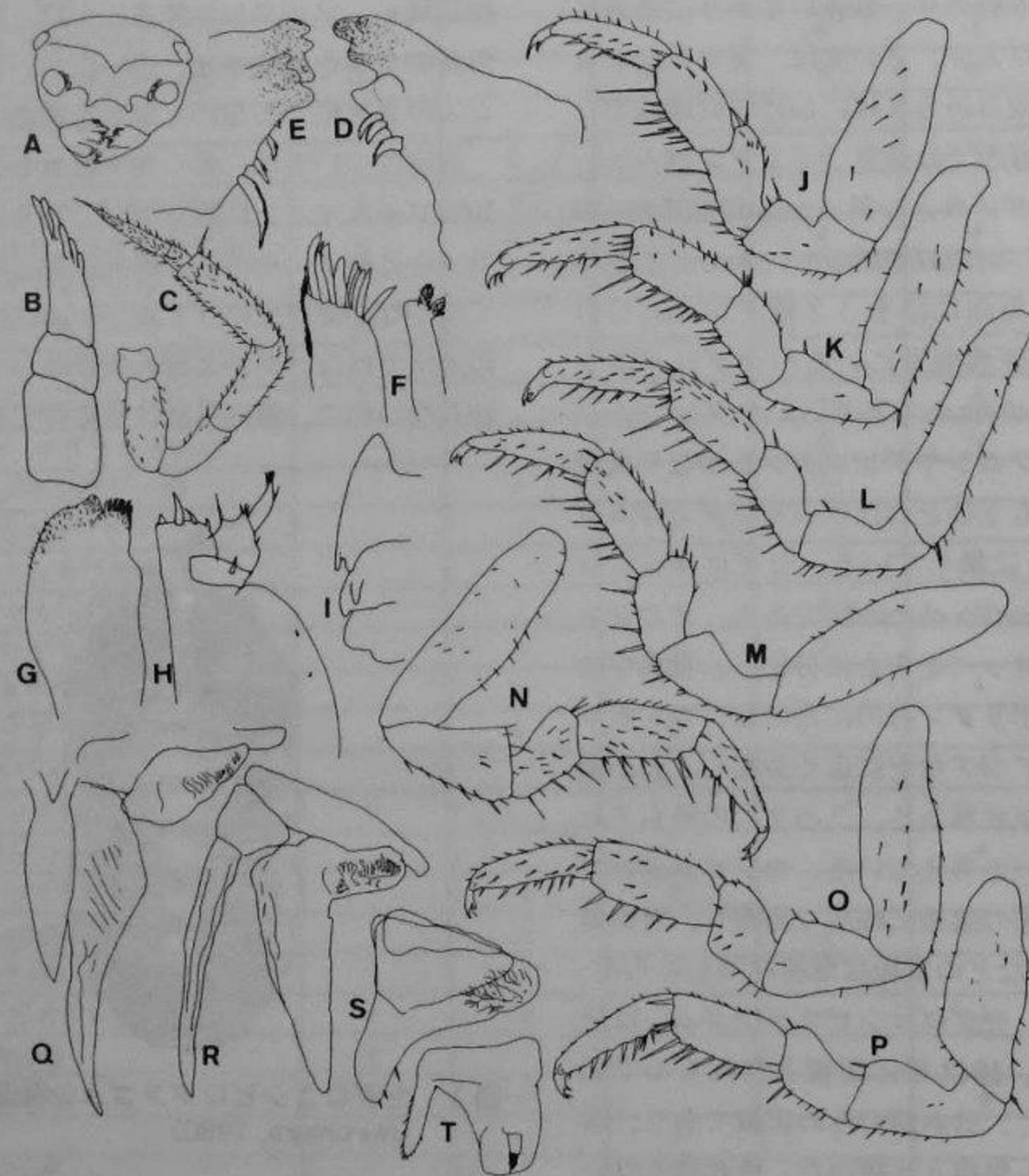


図2 セグロコシビロダンゴムシ(オス)

A: 頭部, B: 第1触角, C: 第2触角, D: 右大顎, E: 左大顎, F: 第1小顎, G: 第2小顎, H: 顎脚, I: 第1-3胸節腹面, J-P: 第1-7胸脚, Q: 生殖突起と第1腹肢, R: 第2腹肢, S: 第3腹肢, T: 尾肢(富山市三熊屋標本)

状剛毛になっている。大顎鬚はない。第1小顎(図2F)：内葉は長い2本の剛毛をもつ；外葉先端には10本の単純な歯を持つ。第2小顎(図2G)は、やや細い。顎脚(図2H)の底節内葉は長方形で末端に4本の突起を持つ。顎脚ひげは、第1節が明瞭に分離し1本の太い剛毛を持つ。

第1胸脚(図2J)は後続の良いより6対よりも幾分短い；底節の長さは幅の2.7倍；座節は底節の3/5、内縁に7-8本、外縁末端に2本の剛毛を持つ；長節は底節の2/5の長さ、内縁に5本の長い剛毛をもつ；腕節は少し膨らみ、長節より少し長く、内縁に9本の剛毛を持ち、特に末端の1本は長い、その先に短い剛毛があり、外縁に3本程度の剛毛を持つ；前節は腕節とほぼ同長。内縁の基部半分には短い多数の剛毛、後半には3本のやや太い剛毛、外縁には9-10本の剛毛を持つ。

第2胸脚(図2K)：底節は長く、長さは幅の3.9倍、内縁に11本、外縁に4本の剛毛を持つ；座節は底節の1/2の長さ、内縁に4-5本、外縁に1本の剛毛を持つ；長節は座節の3/5、両縁に7本の剛毛を持つ；腕節は長節の1.3倍の長さ、内縁に10-11本、3-4本、外縁に8本；前節は腕節より幾分長く、内縁に6-7本、外縁に7本の剛毛を持つ。

第3胸脚(図2L)：底節長く、長さは幅の4.3倍、内縁に12本、外縁に6本の；座節は底節の半分であり、内縁に7-8本の剛毛を持つ；長節は座節の3/5、内縁に8本の剛毛、外縁に2本の剛毛を持つ；腕節は座節とほぼ同長、7本の剛毛を持つが、最も外側の1本が長い；前節は腕節とほぼ同長、内縁に比較的長い6本の剛毛、外縁に7-8本の剛毛を持つ。

第4胸脚(図2M)：底節の長さは幅の3.4倍、両縁に6本の剛毛を持つ；座節は底節の半分の長さ、内縁に12本の剛毛を持つ；長節は座節の2/3の長さ、内縁に3-4本の長い剛毛と2-3本の短い剛毛、外縁に5-6本の剛毛を持つ；腕節は座節とほぼ同長；前節は腕節とほぼ同長、内縁に比較的長い6本の剛毛、外縁に8本程度の細い剛毛を持つ。

第5胸脚(図2N)：底節の長さは幅の3.5倍、外縁に8本程度の剛毛を持つ；座節は底節の3/5の長さ、内縁に7本の剛毛を持つ；長節は座節の3-5本、内縁に5本、外縁末端に2本の剛毛を備

える；腕節は座節よりやや短い、内縁に9本程度の比較的長い剛毛を持ち、外縁に9-10本の比較的短い剛毛を持つ；前節は腕節より幾分短く、内縁に5-6本の剛毛を持ち、外縁に9-10本の短い剛毛を持つ。

第6胸脚(図2O)：底節の長さは幅の3.1倍、内縁に9-10本の剛毛を持ち、末端の1本は長い；座節は底節の3/5の長さ、内縁に2-3本、外縁に3本の剛毛を持つ；長節は座節の半分より幾分短く、内縁に3-4本、外縁末端に1本の剛毛を持つ；腕節は底節の半分の長さ、内縁に5本の太い剛毛、外縁に7-8本の細く短い剛毛を持つ；前節は腕節よりやや短く内縁に8本、外縁に10本の剛毛を持つ。

第7胸脚(図2P)：底節はやや太く、長さの2.9倍、内縁に5本、外縁に6本の短い剛毛を持つ；座節は底節の2/3の長さ、内縁に7-8本、外縁にやや長めの1本の剛毛を持つ；長節は座節の55%程度の長さ、内縁には8-10本、外縁に1-3本の短い剛毛を持つ；腕節は長節の1.4倍の長さ、内縁に7本、に3本の長い剛毛、外縁に7-8本の短い剛毛を持つ；前節は腕節より、やや長く、内縁に7-10本、外縁に8-9本の剛毛を持つ。

生殖突起(陰茎)(図2Q)は左右合一し、紡錘形、突起の長さは根元の幅の3.5倍。第1腹脚(図2Q)内肢はまっすぐで、先端は若干外側に反り、13-15個の微弱な突起を持つ。外肢は細く、外に長いひし形。第2腹肢(図2R)内肢は比較的短い。外肢は外縁が直角の凹部がある。第3腹肢(図2S)以降は前の2対より小さく、内肢、外肢とも三角形。尾肢(図2T)外肢は短く、先端に剛毛束を持つ内肢は細い。

メスもオスと同色・同形だが、交尾器を欠き腹面に覆卵葉からなる育房を持つ。

文献

岩本嘉兵衛1943. 植物及び動物. 11(12):17-32.
Nunomura, N., 1990. Studies on the Terrestrial Isopod Crustaceans in Japan. V. Taxonomy of the families of Armadillidiidae, Armadillidae and Tylidae. Bull. Toyama Sci. Mus. 13:1-58.